26P-pm228

家畜医範書き込み薬物処方からみる薬物処方に関する考察

◯島　和嗣[1], 久保　光平[2], 畠山　貴博[3], 大垣　旭[4], 小松　知貴[4], 澤田　采佳[5], 小松　直登[6], 木村　壮太郎[7], 西野　ゆり[8], 林　優樹[9], 西野　正雄[10], 菰田　綾佳[11], 宮本　如奈[12], 高倉　弘士[13], 畠山　有里[14], 畠山　光弘[15]（[1]金剛高校, [2]四天王寺羽曳が丘高校, [3]初芝富田林高校, [4]河南高校, [5]西浦高校, [6]東住吉高校, [7]藤井寺高校, [8]長野高校, [9]富田林高校, [10]早稲田大学, [11]関西福祉大学, [12]同志社大学, [13]立命館大学, [14]長崎大学, [15]畠山獣医科）

「目的及び方法」・・明治という時代は、急激に全ての文化が西洋化された時期である。我々は、医薬品に興味を持ち、江戸時代の漢方や生薬を中心とした時代から、現代の西洋医薬品一辺倒の時代になる時代の過渡期を見てみたいと考え、1867 年（明治 20 年）に駒場農学校獣医教師ヨハネス＝ルードウィッヒ＝ヤンソンと、その助教の田中宏が家畜医範を発行し、獣医学の基礎が出来上がった教科書的書物である家畜医範に明治３９年当時、講義中に記入された書き込み処方を整理し、教科書記載内容と比較することにより、明治という急速に発展した時代の薬使用の変化を読み取ることを試みた。

「結果」・・書き込み処方例１）吐酒石１．５、家猪脂１０　軟膏とし歯の疼痛緩除に用いる。２）乳汁分泌促進　　金黄流　５０、亡硝２５０，杜松子末１００　丸剤毎食餌１食匙　３）鉄粉２０，食塩２５，遏泥子末５０　散剤　毎食餌３食匙馬の貧血症

　書き込み例ヨードホルムは近来の一新薬ヨードホルムとエーテル合剤に光をあてれば分解して褐色に変化し、効果を失う　ヨードホルム５，柯々阿脂２０，ひまし油　適宜　乾燥し　婁管に注ぐ

「考察」ヤンソンが駒場農学校で出題した薬物学の試験問題は、Ⅰ.Explain the physiological action of Ferrum. Ⅱ.What changes are caused by concentrated acids? Ⅲ.Explain the action of aloe. Ⅳ.What changes are caused in the organism by amaller and larger doses of phosphor?であるが、欄外に書き込みされている処方の多くは調合方法や複数の医薬品を組み合わせた処方であり、当時、口頭でそれら最新の薬物の処方例が教えられていた。